

【評定(達成度)の目安】

Table with 2 columns: 達成度 (A, B, C, D) and 指標 (満足できる, どちらかという満足できる, どちらかといえば課題がある, 課題がある)

《校訓》 明朗・闊達 自主・力行

《教育目標》

- う 打ち出す力 挑戦する生徒
ち 智慧を出し合い心耕す生徒
で 伝統を大切に地域を愛する生徒

《学校教育の基本》

- 時代を生き抜く力を育む
子どもが安心して学ぶことのできる環境を整える
教育組織を改革する
社会全体で子どもを育てる

Main evaluation table with columns: 大項目, 中項目, 小項目, 自己評価 (小項目評価, 中項目評価, 現況), 学校関係者評価 (中項目評価, 意見・提言等), 今後の学校改善に向けて

大項目	中項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
			小項目評価	中項目評価	現況	中項目評価		意見、提言等
2	地域に開かれた特色ある学校づくりの推進	育ちと学びを支える連携	① 家庭・地域との連携	18 保護者の子育てに対する積極的な支援ができた。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な保護者に対応される先生方もご苦労が多いと思いますが、今以上「teturu」等を活用し多様な保護者や孤立する保護者の支援連携する資質能力も大切になると思います。多様な保護者が自分事として参画できる教育組織等また、社会参加、社会貢献意識、主権者教育の充実をお願いします。</li> <li>・teturu導入は、保護者の立場からも大変ありがたい。子どもが進路指導で誌面で説明を受けてきたものがteturuで共有されるなど使い方が効果的だと感じる。防災教育と共に、交通安全教育も取り入れることはできないか？行動範囲が広がる年代だからこそ必要性を感じる。</li> <li>・teturuは多様な情報が理解でき有用です。ある意味学校の状況が見えるようです。</li> <li>・もっと多くの保護者に学校での参観等、交流に参加してもらえると良いです。</li> <li>・目は離さず、自立への一步一步を踏み出す中学時代。それまで親の管理下で育てている様に思っていた子ども達が、自分の意思を主張したり、学校からの手紙などを出さなくなったり、親は「あれ？」と親子の関係性にも不安を感じ、焦ってしまいがちです。teturuやホームページの活用は家庭と学校をつなぐ、とても便利で有効的だと思います。「ふらっと訪問」とても魅力的です。</li> <li>・災害・防災に対する取り組みは家庭・学校が共通課題として常に意識した取り組みが不可欠であり、さらなる充実を期待します。</li> </ul>
			19 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域の人材を活用することができた。	A	A			
			20 防災教育を推進し、安心・安全な学校づくりに努めることができた。	A				
		② 保幼小中の連携	21 子どもの校種間交流や教員の出前授業を実施することができた。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革が叫ばれる中ですが、子ども家庭庁が発足成立し制度的には、切れ目ない子ども政策が一応あることから、さらなる先生方の連携推進の方法を見直し、学習履歴等、教育データを活用した個別最適な学びの充実をお願いします。</li> <li>・体操服採寸のみでなく、小6世を対象とした入学説明会を復活させて欲しい。コロナ禍に実施されなかったことは理解できるが、第1子での入学を控える保護者などからの不安の声を聞くことが多い。特に、子どもが中学校へ行く機会が欲しい。</li> <li>・先生方の連携は大切でしょうし、今後お願いします。</li> <li>・12月平野小での若者交流会では、高校生とも協力し中学生が楽しくリードしてくれました。</li> <li>・学区のリーダー的存在で、保幼小中の連携を盛んに行っていたいただきありがたいと感じています。中学は中学時代だけではなく、その子の人生にすべての年代がそれぞれにある様に、あこがれたり、なつかしがり様々な感情と交流し、少子化核家族により、うすれてきた他世代交流は心の成長にとっても良い環境を与えていると思います。</li> </ul>	
		22 校種間の合同研修会(ブロック研等)に参加できた。	B					
		23 校種間の授業公開やカリキュラム研究ができた。	B					
	組織的体制の充実	① 生徒指導体制の充実	24 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導への全校体制がとれた。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未然防止、早期発見のために各学年、情報の共有をし、迅速な対応を進めることができた。長期休業中には、タブレットでしおりに記入することで、生徒の状況を把握することができた。</li> <li>・長期休み後に教育相談を実施し、生徒の様子を聞くことで、生徒と担任、学年の教師とのコミュニケーションに機会を増やした。各クラスの様子を担当同士が積極的に交流することができた。</li> <li>・生徒の様子について家庭、関係機関との連携を密に取り、指導の方向性を相談しながら協力して指導にあたることができた。</li> <li>・職員会議や研修会を通して特別支援教育の充実を図る取り組みができた。年々個別対応の必要な生徒が増加し、対応の工夫が課題である。</li> </ul>	
			25 生徒指導、教育相談体制を確立し組織的に推進することができた。	A				
			26 家庭・地域・関係機関との連携による指導を図ることができた。	A				
		② 特別支援教育の充実	27 保護者の悩みを聞く個別相談を実施し、作成した個別指導計画を活用することができた。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画を立案するにあたって「目標」「評価」を共有することで、保護者との連携を密に行うことができた。</li> <li>・配慮の必要な生徒や学校生活への適応に支援を要する生徒について、関係機関からの助言をいただく機会を持ち、適切な支援につなげるとともに教職員の対応力の向上にもつなげることができた。</li> <li>・特別な支援を必要とする生徒が増加傾向にある中、支援の必要な生徒の情報共有と支援の方向性の検討を継続して行うことができた。また、学校生活支援員の見立てや気づきを担任や教科担当と共有することにより、よりよい支援のあり方について考え、実施することができた。</li> <li>・職員会議や研修会を通して、特別支援教育の充実を図ることができた。年々、個別対応の必要な生徒が増加している。今後も研修を積んでいく。</li> </ul>	
		28 組織的・計画的な特別支援教育の体制を確立することができた。	A					
		29 関係機関と連携しながら相談活動を充実させることができた。	A					
9	学校満足度	30 生徒は学校に対して満足している。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な課題がある中、多様化する生徒さんの状況に応じて誰一人として取り残されないという思いで、実践をお願いします。校長先生はじめ先生方の実践に感謝しております。</li> <li>・安心・安全で楽しく学びの深まる学校であってください。</li> <li>・最高です。不登校生徒の気持ちへの配慮も考えつつですが、生徒が学校生活に満足してくれているこの数字は励みになります。</li> <li>・アンケート結果は良いと思うが、さらに満足度を向上させて欲しい。</li> <li>・不登校の増加は全国的傾向であり、解決策は難しいが専門的に取り組む課題と思われる。</li> </ul>		

9	学校満足度	30 生徒は学校に対して満足している。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽しくない」と感じている14%の生徒に目を向け、授業や生徒との関わり方を見直し、生徒や保護者との信頼関係の構築に全教職員で取り組む。</li> <li>・生徒が安心して学校生活が楽しいと感じられるように、きめ細やかな取組指導に努める。</li> </ul>
---	-------	---------------------	---	---	---	---